

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570408575		
法人名	社会福祉法人大館圏域ふくし会		
事業所名	グループホームかみやま ユニット金山		
所在地	秋田県大館市花岡町字前田162番地39		
自己評価作成日	平成29年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりに寄り添いながら個々の希望・思いを気軽に話し合い雰囲気作り努め、笑顔多く個々を尊重し、安心して暮らす事が出来るよう努めている。 ・利用者の身体機能にあわせた入浴方法(一般浴・個浴)で対応している。 ・生活委員会を通じて毎月の行事を実施し季節を感じてもらい気分転換に努め生き生きと暮らしていただくよう取り組んでいる。 ・地区の公民館祭りや夏祭りでは地域の方々と交流をし、より良い関係を構築している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は利用者寄り添い、普段から穏やかな話し声が途切れない。情報共有や話し合いの必要な事について、周知徹底できるよう、全員が把握しやすい伝達方法が工夫されている。食事は法人内の栄養士が献立を立て、調理済みの物を職員と利用者で盛り付けている。食事内容は彩り良く、種類も豊富で美味しい味付けになっている。食後はすぐに片づけたりせず、会話をしながらゆっくり過ごしている。利用者が同じ椅子に座りっぱなしにならないよう、1日数回ソファーに移動をするなどの配慮している。また、季節に合わせた作品を利用者が作れるよう手作りボランティアが来訪して教えてくれたり、語り部ボランティアも来訪するなど、利用者の楽しみにつながっている。気候の良い時は外に散歩に出かけ、地域の方と挨拶を交わしたり、地域のコミュニティセンターを借りて、数人ずつ出掛け、カラオケを楽しめるなど、利用者の望む生活に近づけるよう努力している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づいた支援が出来るよう日々努力している。	法人の目標は事務所内に、事業所の理念は玄関に掲示されている。朝の申し送りなどの機会には原点に戻るため、随時全員で唱和をして振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事(夏祭り他)、避難訓練に近隣住民の方又は会社員の方に協力してもらい安心して暮らせるよう取り組んでいる。又、熊の出没が多く地域の警察も頻りに声をかけてくれたりと気にかけてもらっている。	町内の夏祭りや文化祭等に出掛けたり、散髪や買い物、散歩など、天候に合わせて出掛け、近隣住民と挨拶を交わしている。また、季節に合わせた作品を利用者が作れるよう手作りボランティアの他、語り部ボランティアが来訪してくれている。法人として、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の正しい知識を地域の方々や家族など、関わるの方々への発信の場となっている。	事業所周辺には郵便局、コミュニティセンター、公民館、保育園、警察署、商店、床屋など、暮らしに便利な施設が豊富に揃っている。現在でも地域とのつながりを大切に取組みをさせているが、今後さらに交流の輪を広げていけるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	2ヶ月毎に行う運営推進会議で報告してアドバイスをもらったり、グループホーム広報を発行しホーム内の生活状況を知ってもらっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に実施しており、利用者の日々の状況を細かく報告し意見交換しサービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議には毎回、地域包括支援センター職員や地域住民の方が都合をつけて参加してくれている。事業所の状況報告の他、活発に意見交換をしており、事業所の励みになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の福祉事務所や、生活支援センター等に生活保護受給者についての報告を毎月実施し連携をとっている。	月に1回、生活支援センター職員が担当している利用者について、分からないことを聞いたり、市の職員へも不明な点を解決してもらったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中においては開設当初から玄関の施錠はしておらず、その分利用者の行動把握に努めている。又、玄関にセンサーを設置し2重の確認をしている。	「自分に置き換えたらどうか」ということを考えて対応するよう、管理者から職員へ普段の申し送りで伝えていく。夜間、居室でのセンサーが必要な方に対する配慮についても、全員で勉強し周知徹底している。その他の研修についても外部で行っているもの、法人や事業所内で行っているものなどに参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・学習会・回覧で個々に学習し、日頃の処遇においても気づきがあったときはその場で再確認し処遇のあり方を支援会議で話し合い実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだ職員の記録を回覧している。現在利用している利用者がおり生活支援センターから支援員が訪問し月1回本人と面会され書類のやり取りをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず管理者が立ち会い家人利用者が納得してくれるよう説明しその上で入居してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話しやすい雰囲気を作ったり、利用者アンケートを実施しており検討し実施している。又、広報等を関係者、近隣に回覧している。	利用者へは、茶話会の行事の際に、あらかじめ決めておいた項目に沿って、職員が希望を聞いている。行きたい場所、入浴や生活のこと、心配な事から好きな歌まで答えやすいようになっており、その希望は計画して実行されている。家族へは月に1回の担当者からのお手紙や、事業所だより、請求書や日用品の領収書などで報告している。その他にも随時面会や電話、手紙などで意見を聞いている。	以前は家族からの意見や要望を、家族アンケートからも聞き取っていたとのこと。今後も続けて行っていけるよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課(自己評価)で反省・目標を掲げ、施設長との個人面談で意見交換している。	職員一人ひとりの気づきが大切であり、日頃から職員へ提案を聞いたり、意見や気づきを述べてもらっている。それを全体申し送りノートで全員が把握し、さらに大事な部分はホワイトボードの連絡事項に書き込んでいる。それらの情報伝達に関しても、改善を重ねて周知徹底できるように工夫されている。また、職員の気づきや意見が業務にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の諸規定を基に各自把握し業務している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内学習会・研修会、職場外研修会に参加し個々のレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人各種委員会・会議に参加しサービスの質を高めるため意見交換し、各事業所に回覧され職員個々が把握している。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談後フェースシートを作成し、利用者・家族と会話を多く持ち利用者支援に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談や契約時の他にも随時要望があれば伺い良好な関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	余暇活動や食事コーヒータイムなど利用者同士の語らいの場を提供し会話を楽しめる雰囲気づくりに努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家人宛で生活状況を報告し、緊急時には電話連絡したり密に連携をとっている。利用者によっては一時外出、外泊し家人とゆっくり過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人、親戚、知人他面会に来られ一時を過ごされている。又、行事(夏祭り、敬老会)にも希望を聞きながら家人に参加してもらい過ごしてもらっている。	利用者の同級生、近所、友人、親戚なども、面会に来訪した際、過ごしやすいよう配慮している。近所の理容室に来てもらい散髪をしている方もいる。民謡の好きな方が好きなことを続けられるよう、また利用者も楽しめるよう、職員は雰囲気づくりをしたり、趣味を継続していけるよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、水分補給、体操は利用者全員で実施出来るよう、居室で多く過ごす方にも声がけし本人の希望のもと行えるよう取り組み、その中から会話が成り立つ雰囲気を作っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退居された後も連絡を取りやすい声がけをし、現に相談があり他事業所に連絡を取ったりして対応した事あり。バックアップ施設(神山荘)に入居された利用者には各部所の職員と連携しフォローをしている。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに沿った支援は勿論の事、それ以外の希望も答えられるよう勤務調整し答えている。	普段の会話から利用者の希望を聞いている。それについて、職員の勤務を調整して実行に移している。利用者側から話さなくても、職員の方から側に座り、声を掛けて表情やその方の目で訴えていることを聞くようにしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談時の情報や本人家族からのバックグラウンドアセスメントにも目を向けている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝体温測定したり、利用者によっては血圧他測定時状態変化に気配りし、場合によっては通院の検討したりしている。個々の役割も偏らない様に職員の連携で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チェックシートを活用している。支援会議も実施し、家族からの意見に答えていくよう話し合いながら計画を検討している。	プランの見直しの際には、その方の担当の職員がケアチェック表に書き込み、それをもとに計画している。家族からは、面会や電話で意見を聞き作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の介護記録・個別記録をもとに申し送りしながら職員間の情報共有し介護計画の見直しをしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体2組が月1回ずつ訪問され簡単な手芸・工作・歌等を一緒に作成し完成した喜びを味わっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時やその後も本人や家族の意向に答えている。かかりつけ医や薬局にも随時報告や相談をし良好な関係を築いている。	希望のかかりつけ医を受診している。受診時は家族や職員が付き添い、利用者個々の通院ノートやバイタルチェック表などを持参し、最近の状態を細かく伝えられるようにしている。受診結果についてはご家族のスタイルに合わせて電話や手紙で伝えている。年1回の健康診断や往診でのインフルエンザの予防接種を実施している。協力医とも良好な連携をとっている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが健康診断、感染症対応、予防接種の際はバックアップ施設の看護師と連携を取っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関だけでなく、家族、居宅と情報交換し安心して治療できるような環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ホームで出来るサービスの説明をし、ホームでの生活が困難になってきたときは早めにバックアップ施設に相談している。	利用者の身体機能等の確認をして、必要な方へは区分変更を行い、本人や家族と話し合いをしている。身体状況の変化が少しずつみられる場合は、電話や手紙で報告し、本人、家族と一緒に決めている。バックアップ施設へも早めに相談し、受け皿を確保している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護・看護マニュアルを活用している。感染症対応のシミュレーションやガウンテクニックを職員個々に周知している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルや避難訓練を実施し、物品の整理に努め緊急時に備えている。	年に2回の避難訓練を行っている他、抜き打ちでの本部への駆け付け訓練と電話連絡訓練を年1回ずつ行っている。備蓄品については、一覧表で非常食の賞味期限が一目でわかるようにするなど、必要時にすぐ使える為の点検をしている。また、災害用のヘルメットや懐中電灯、その他災害時に必要になるものは、普段から目に付くように、職員のタイムカードの隣に設置している。地域の方から積極的に参加してもらい、協力関係が築かれている。法人で『災害時駆けつけ経路』を作成したり、各部屋に「避難誘導済」を知らせる検索ライトを設置している。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意見の尊重と一人ひとりの発言について否定せず傾聴し優しく声掛けしている。	利用者を尊重し、プライバシーを損ねないよう、普段の申し送りの際に、管理者から職員へ言葉使いや対応の仕方などについて伝えている。意思表示が困難な利用者へは、その方の目や表情などから訴えを聞き取っている。利用者同士で会話する際も、事務所近くの一角を用意しており、その場所を利用する方もいる。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で簡単な質問又は選択をしてもらい自己決定に向けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散髪や、おやつ購入等一緒に出掛けたりして本人の希望に沿った個別支援をしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容等不十分な時は声掛け介助したり身だしなみに気配りしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼の難しい利用者には副食をきざみにしたり、汁物にはトロミ剤を使用し、主食はおかゆを提供している。	水分補給は1日3回、1日の目標摂取量を決めて行っている。食事は法人内の栄養士が献立を立て、調理済みの物を職員と利用者で盛り付けている。当日の食事も彩り良く、種類の豊富な食事内容で、味付けも良く、美味しい。食後はすぐに片づけたりせず、会話をしながらゆっくり過ごしている。利用者の食べたいものがあれば、買ってきて提供している。食後の口腔衛生もしっかり行われている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事提供はバックアップ施設(管理栄養士の献立)で行っておりホームでは盛り付けを行い利用者に提供している。食事の他水分補給は10時・14時・16時と実施しており、日/1200以上は摂取出来ている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは実施しており、状況によってはマウスウォッシュ、舌磨きも行い清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な利用者に対し時間を決めてトイレ誘導を行ったり、排泄状況のチェック表を確認し声掛けしたり支援している。	排便がスムーズになるよう、ヨーグルト、ヤクルト摂取の他、ラジオ体操を1日2回行っている。また、同じ椅子に座りっぱなしになることを避けるため、1日2回はソファーに移動し、エコノミークラス症候群予防に配慮している。排泄は排泄チェック表を確認しながら4時間に1回はトイレ誘導している。夜間オムツ使用でも、日中はリハビリパンツを使用し、できるだけトイレで排泄できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心がけ、午前・午後とテレビ体操をおこない排便を促している。ヨーグルト・ヤクルトを定期的に提供している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一般浴(月・金)と個浴(火・土)の曜日に設定しているが基本は利用者の希望に応じている。	入浴を楽しめるよう、入浴剤を入れたり、民謡の音楽を流すなどして工夫している。体調不良時は部分浴や清拭を行っている。床暖が入っているため、いつでも暖かく入浴できる。その時によって入浴を好まない方は、声かけや時間をずらすなどして対応し、入浴出来ている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意思を尊重し居室で静養希望があった場合は夜間の睡眠の妨げにならないように時間を確認して見守っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状を把握し医療機関と連携を取り相談や確認したりして支援している。(個々の通院ノート・薬の説明ファイルあり)		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯干し、洗濯たたみ等軽作業の役割意識を持ってもらうよう支援している。個々の嗜好品なども準備し気分転換に努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ユニット内は自由に歩いてもらい、日光浴、散歩を行っている。毎月行事係が計画しドライブ、地域行事に積極的に参加し楽しんでいる。	気候の良い時は外に散歩に出掛け、地域の方と挨拶を交わしたりしている。地域のコミュニティセンターも貸出してもらえる時間に予約し、数人ずつ出掛けてカラオケ等を楽しんでいる。大人数での外出は、法人内施設の福祉車両を借りたり、マイクロバスを借りて出掛けている。一人ひとりの行きたい場所へは、通院の帰りなどに希望の場所へ行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っており、外出時は必ず小遣いを持参し希望時は本人に支払ってもらっている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家人に連絡したり、希望に応じてハガキ、手紙なども書いてもらい家人に渡して(郵送)いる。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるよう四季折々のレイアウトをしたりリラックスできるようなアロマを使用したりと工夫している。	リビングや廊下も利用者の生活空間だという意識を常に持ち、壁には貼物を貼りすぎないようにしている。利用者に普段必要な目印は目の高さに合わせて貼り、一角の壁は季節が分かるよう綺麗に装飾されている。ウィルスや臭い対策のため、アロマや最新の除菌脱臭機を設置している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内で思いっきりおしゃべりが出来るようなコーナーを設け自由に使用している。又、こたつコーナーも自由に使い気分転換を図っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の使っていた家具やイス等を設置し馴れ親しんだ物がある事で安心してもらったり、居室前にノレンを下げて居心地の良い環境になるよう工夫している。	手作りボランティアの方に教わりながら作った、季節の作品などをさりげなく飾っている。趣味の習字や家族の手作りの暖簾など、その人らしい居室作りを心掛けている。自分で出来る方は居室の掃除を行ったり、洗濯を干したりと、家庭的な作業も取り入れている。本人用のテレビやラジオ、冷蔵庫や家族の写真なども持ち込みされている。居室の窓は大きく、風景や外を歩く人や車なども見え、それを楽しみに窓の景色を眺めている方もいる。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時は手すりを使用してもらったり、車椅子利用者には自走して自由に行動してもらったりしている。隣ユニットへも自由に行き来が出来思い思いに生活されている様子あり。		